

2019年6月14日(金) ハコラク7月号 掲載

医療の現場から『抗がん剤治療を上手く乗り越えるには』

亀谷 朋子 がん化学療法看護認定看護師

医療の  
現場から 1



## 抗がん剤治療を 上手く乗り越えるには

函館中央病院

外来化学療法センター  
がん化学療法看護認定看護師

亀谷 朋子 さん

抗がん剤治療による副作用は良く知られている吐き気や脱毛だけではなく、手足のしびれ、皮膚障害など、以前はあまり注目されていなかった症状を体験する患者さんが増えてきました。昨年ノーベル賞の受賞で話題となった免疫チェックポイント阻害薬の登場により、私たちが今まで経験してこなかった副作用があることも、症状が多様化した要因です。

副作用の感じ方は患者さんによりさまざまで、例えば手足のしびれを「たいした事はない」と捉える方もいれば「ひどかった」と捉える方もいます。感じ方も「手に一枚膜が張った様な感じ」「手が握りにくい」など、

いわゆる正座した後の足のしびれの様な感じ方ばかりではないため、医療者にはその人にしかわからない体験を理解しケアしていく事が必要です。

抗がん剤治療中の患者さんから副作用に伴う体験（日常生活への影響など）をお伺いした際、しびれなど、言葉で表現しにくい症状を上手く患者さんから引き出したい時、他の方の体験談をご紹介させて頂く事もあります。「他の患者さんは治療をどう乗り越えているのか」と気にされる方は多く、同じ病を持つ患者さんの頑張りや自分自身の励みに繋がる方も多いです。また、さまざまな職業や生活背景をお持ちの患者さんの人生に触れ、悩みを聴いたり、共に落ち込んだり、励まし励まされる中で私たちが教わる事も沢山あります。

患者さんから頂いた声が新たなケアに繋がる事もあり、そのような時、看護師という職業の尊さを実感します。

体験を伝えて下さった方の中には「気持ち楽になる、心が軽くなる、安心した」とお話になる方もおります。伝える事で全てをわかり合う事は難しいのかもしれませんが「分かち合う」誰かがいるという安心感が抗がん剤治療を上手く乗り越える鍵となるのかもしれない。



函館中央病院

函館市本町33-2 ☎0138-52-1231(代) <http://www.chubyou.com/>

■診療科目/内科、消化器内科、腫瘍内科、循環器内科、小児科、外科、整形外科、形成外科、  
心臓血管外科、皮膚科、産婦人科、耳鼻咽喉科、歯科口腔外科など全24科目  
■受付時間/8:30~11:30、13:30~16:00※土曜は午前のみ。診療科や時間帯によっては要予約。  
■休診日/日曜・祝日・年末年始